

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	助産師必修
担当教員			
◎増澤祐子、常盤洋子、八巻ちひろ、上田恵、五十畠麻奈美、黒崎美月、塚田文枝			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 90時間	
	【担当教員】 ◎増澤 祐子 常盤 洋子 八巻 ちひろ 上田 恵 五十畠 麻奈美 黒崎 美月 塚田 文枝	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上 同上 同上 同上 同上	【研究室】 320 309 302 共同研究室2 302
【本学の科目区分】 専門分野			
【D P 1】 ○ 【D P 2】 ◎ 【D P 3】 ◎ 【D P 4】 ○ 【D P 5】 ○ 【D P 6】 ◎			
到達目標	1. 対象への継続的な関わりにより、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の生理的変化および継続的なケアの実践を通じ、母子とその家族が地域においてより健康な経過をたどるために必要な切れ目のない支援について述べることができる。 2. 受け持ち継続事例を通して、地域の生活の場で必要とされる、母乳育児、母子関係確立、育児期のメンタルヘルス等に向けた援助等、母子との継続的な関わりを通して母子と家族への支援について述べることができる。		
授業概要	妊娠期から産後4か月までの母子を継続して受け持ち、科学的根拠に基づく助産診断、個別性に応じた切れ目のない母子ケアを実践する。また、母子の暮らしを見据えた母子ケアにおける助産師の役割と態度を考察する。		
授業計画	<p>授業形態：実習          実習施設：実習施設名          新潟県立中央病院          新潟県厚生農業協同組合連合会          上越総合病院</p> <p>実習期間          令和7年4月中旬～令和7年6月下旬（この期間のうち2週間）          *実習内容、実習方法は実習要項参照</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 例の継続事例について、妊娠期から産後4か月までの助産過程を展開する。</li> <li>助産診断に基づいて、妊娠・胎児・家族に必要な個別性のある援助計画を立案し、正常な妊娠・分娩経過の維持・促進に向けた対象のセルフケア能力向上を目指した保健指導を継続的に実践する。</li> <li>分娩介助した褥婦及び新生児を退院まで受け持ち、産褥・新生児期の助産過程を展開する。</li> <li>対象の個別性に合わせた産褥期保健指導計画を立案、実践する。</li> <li>産後4か月頃までの（産後2週間健診、1ヶ月健診を含む）助産過程を展開し、母子の健康診査、保健指導を実践する。</li> <li>産後の家庭訪問について計画を立案し、教員の同行のもと実施する。</li> <li>施設退院後から4か月頃までの継続的な関わりを通して、地域の生活の場で必要とされる母子とその家族への具体的な支援について考察する。</li> </ol>		
事前・事後学習	事前学修：助産師コースの既習科目を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。また、母子継続ケアの助産診断や保健指導の根拠となる各種ガイドラインや看護理論の活用法を検討しておくこと。 事後学修：妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期・乳児期の助産診断と保健指導、分娩介助のリフレクションは科学的根拠に基づいて実践できたかという視点をもって丁寧に行うこと。		
評価方法、評価基準	実習記録、実習後のレポート、到達目標としての実習目標到達度、実習態度・意欲から総合的に評価する。		
テキスト	母子継続実習で受け持ったに事例に関する資料や文献を基に助産診断および助産ケアの実践やリフレクション資料を作成するためテキストは特に指定しない。		

参考図書・資料等	実習で受け持った事例の助産診断および助産ケア、リフレクションに関する資料や文献を適宜活用するため参考図書・資料等は特に指定しない。
受講、課題、資料配布等のルール	実習方法の詳細は実習要項参照。 母子継続ケアの実践にあたって助産診断及び保健指導案は事前に実習指導担当の教員及び臨床指導者の指導を受けること。
教員からのメッセージ	母子継続ケア実習によって助産師のコア・コンピテンシー能力の習得が期待できます。対象となる母子と家族を中心に臨床指導者、教員との信頼関係を築きながら助産実践能力を修得できるように努めてください。
オフィスアワー	実習中は対面や電話、メール等で隨時相談を受け付けます。